

一球通信 vol.149

*****コンテンツ*****

1. 秋季リーグ戦 前半 戦績
秋季リーグ戦 後半日程
3. 広商交流 50 周年企画
 - 〔1〕OB・OG より
 - (1) 箕 宗憲様 (S49 年卒)
 - 〔2〕プレーバック交流史
 - (1) 古賀 正様 (広商 S47 年卒)
 - (2) 中村正文様 (一橋 S57 年卒)

1. 秋季リーグ戦前半戦績

9/14(土) vs 東京都市大学 第1節第1回戦

3-8●

一橋	1	0	0	0	0	0	0	1	1	3
都市	1	2	1	2	2	0	0	0	×	8

【投】佐藤 (1回) →鈴木 (3回) →笠松 (2回) →大田 (1回)

〔本〕白根(9回 ソロ)

9/15 (日) vs 東京都市大学 第1節第2回戦

0-6○

都市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一橋	0	1	0	1	2	1	1	0	×	6

【投】木下 (8回) →大田 (1回)

〔三〕大北

〔二〕白根 阿部

9/20 (金) vs 東京工業大学 第1節第1回戦

3-1○

一橋	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
東工	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

(10回からタイブレーク)

【投】木下 (8回) →鈴木 (2回)

〔二〕青田

9/22 (日) vs 東京工業大学 第2回戦

1-2〇

東工	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
一橋	0	0	0	0	0	0	0	2	×	2

【投】鈴木 (8回) →大田 (1回)

試合結果詳細は野球部マネージャーブログや、以下の東都大学野球連盟 HP よりご確認ください。

<http://www.tohto->

[bbl.com/gameinfo/schedule.php?YEAR=2019&SEASONID=02&LEAGUEID=04](http://www.tohto-bbl.com/gameinfo/schedule.php?YEAR=2019&SEASONID=02&LEAGUEID=04)

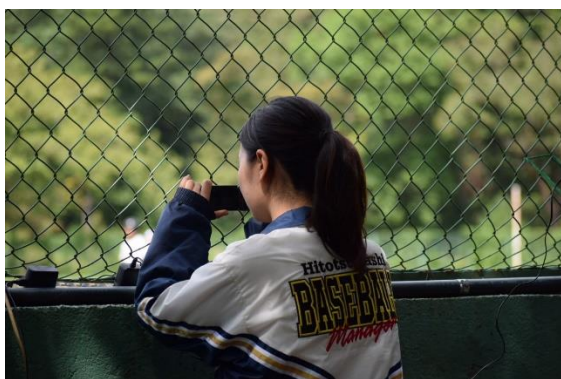
☆秋季リーグ戦今後の日程

10/5 (土) /6 (日) 10:30~vs 東京都市大学 第2節

10/12(土) /13(日) 10:30~vs 東京工業大学 第2節

10/19 (土) 10:30~ vs 東京都市大学 第1節第3回戦

試合開始時刻は天候等により変更する可能性があります。弊社 HP をご参照ください。



【広商との交流 50 周年に寄せて】

一橋と広商野球部の交流初期の記憶

笥 宗憲（昭和 49 年卒）

1 2019 年 8 月 10 日、甲子園球場三塁側アルプススタンド。

50 年程前、国立のグラウンドで共にプレーをした OB 諸氏と、15 年振り甲子園に登場した広商を応援しました。

1980 年に私は地元の兵庫県に戻ってから、仕事や諸事に追われ甲子園球場からは足が遠のいたまま過ごしていました。それに、還暦に近づく頃まで、広商野球部でお世話になった方々とも、交流の機会を殆ど持たず、恩返しもできず歳を重ねてきました。

今回も、昭和 51 年卒の飯島氏から声がかかり、一緒に甲子園での観戦となりましたが、スタンドから選手の澆刺としたプレーを見て、交流の始まった頃を思い出し拙文を呈することにしました。

故畠山先生を始め、お世話頂いた方々の姿を想起しつつですが、思わぬ記憶違い等、失礼に渡る点をご容赦願います。

2 1971 年 12 月末から、短期間ながら広島に行きお世話になりました。

自分は 4 月からの 3 年生春のシーズンを前に、実家のあった西宮市からまだ山陽新幹線はなく在来線での移動でした。下級生の中で私に広島行の声がかかったのは、翌年の戦力としての期待があったかと勝手に思っていました。その後よく考えてみると、先輩方は、チームプレーに難点があった私に、広商野球を通してある種矯正教育を施そうとされたのかもしれませんが。

真相はともかく、私は、広島駅で今井さんや浜田選手達の出迎えを受け滞在先の若松選手宅に案内されました。若松宅は、広商から徒歩数分の場所で、滞在中、ご両親も自営業で多忙の中、家族ぐるみで、寝食両面、大変厚遇していただきました。

3 後述の事情で、卒業後長らく広島を訪問することができませんでしたが、若松選手の父上には生前一度だけお会いすることができました。私は、引退後も地域や業界のチームで軟式野球に親しんでいますが、40 歳の頃広島銀行のグラウンドで業界の全国大会予選が開かれた時、長らくご無沙汰していた若松選手宅に挨拶に伺いました。父上はその後、グラウンドまでわざわざ差入を持って激励に来てくださいました。後にお聞きしたところ、私の仕事とご縁のある保護司として更生支援の活動を長年しておられたそうです。

4 合宿中、連日広商グラウンドに通いました。

練習の詳細は覚えていませんが、ティー打撃では、若松選手から大学生は打球が違う、などと褒めてもらい気分を良くしました。ところが、フリー打撃で投手のボールを甘く見たせいで、内角球を打ち損じ（今も感触は残っています）、若松選手から借りた大切な圧縮バットを折ってしまうという失態を演じました。申し訳なく、その後も何倍にもして返さなければ思いながら、遂に実行出来ないままとなり、今でも苦い思い出となっています。

5. 夜の勉強は、若松宅二階で、若松選手、古賀選手と三人で机を囲みました。

それぞれ、東洋大、法政大に進学予定の2人は、今井さん担当の浜田選手が悲愴感、緊張感を漂わせていたのに比べて、相当余裕が伺えました。私は、例にもれず若干家庭教師や塾教師の経験もあったものの、野球強豪校選手の学習を見るのは初めてでした。

厳しい練習で教科書を開く時間も少ないのではないかと、兵庫県下の某高校では朝5時台に家を出て帰宅は夜10時過ぎ、授業時間が睡眠時間になっている等の話も聞いたことがあります、正直手応えに不安を抱えながらのスタートでした。

6. しかし、始めてみると、机に向かう姿勢、そして受け答えの仕方からして高校生らしからぬ確固としたものがありました。今風の表現でいうと、両選手の存在感はかなりのものでした。さらに畠山先生から広商では学業成績が低下すると部活動も制限されることがあると聞いたことがありましたが、両選手の教科に対する態度からも納得できました。科目は、歴史、倫理社会、政治経済、国語、英語だったように記憶していますが、両選手とも、考えをしっかりとっており、教えるというより教科書を材料に語り合う、といった感じでした。両選手の存在感や何か吸収しようとの集中力は、むしろ当然で、四番打者や主将としてチームの中心で、他の選手をまとめ引っ張ってきた自負があったと思います。

- 7 広島を辞去する前、3人で記念のサインボール1個に署名し、それぞれ、東洋大4番、法政大1番、一橋大4番と肩書（目標）を書き、私は実家に持ち帰りました。そのボールは野球好きだった私の父（昭和の初期に愛知商業野球部に入部し、後に慶大で活躍された大館盈六氏らと、中学で同窓だった。）にプレゼントしました。

8. 翌年春、若松選手は、東洋大で一年生の四番サードで出場し、東都連盟リーグ開会式の時に何度か姿を見つけたことがありました。そのうちどこかで食事でも、と何度か声をかけたことがありましたが、結局実現しませんでした。畠山先生の没後の広商での記念集会で再会するまで、東洋大学や社会人野球での活躍を、新聞やニュースで見っていました。

9. 古賀選手は大学野球部から、教職の道にすすまれ、高校野球の指導者としても神奈川県下で長く活躍されました。久しく会う機会がありませんでしたが、手紙のやりとりをさせてもらったことがありました。私が刑事弁護を担当した兵庫県の冤罪事件のことを新聞で読んだと書いてもらい、嬉しい気持ちになりました。

10. 私は、野球部4年春のシーズン後、チームに迷惑をかけることを心苦しく思いながら、進路（国家試験受験）のため野球部を引退しました。5年余りの受験浪人の生活では、仲間や後輩が社会に巣立ち活躍するのを横目に、アルバイト以外、アパートや図書館等に籠る生活が続きました。

実は、恥ずかしく、今まで口にすることはありませんが、当時、国家試験受験には反対していた父から、ドラゴンズに知人がいるので入団テストを受けたいなら紹介すると言われたことがありました。しかし、広商OB（滞在時畠山先生宅でカープ現役の三村選手や阪神入団が決まった山本和投手とも懇談させていただきました。）や、甲子園球児の姿から、自分が、そのような世界で生きていける力は到底ないことはよく分かっていましたので挑戦もしませんでした。

父の親バカの面を垣間見た訳ですが、野球好きの父の遺伝子は受け継いだようで、趣味として、68歳の今もプレーを続けています。

11. 今夏、甲子園の開会式挨拶で、戦時下の広島と甲子園球場への爆弾投下の事実や、スポーツと平和の大切さが語られました。私も父から、戦前のベーブルースと沢村栄治の対決の話を何度もきかされ、同時に、沢村、吉原（巨人軍最強の捕手といわれている）達が軍隊に召集されなかったら、どんなに活躍しただろうと、無念そうに語るのを何度も聞きました。吉原捕手については熊本工業でバッテリーを組んでいた故川上哲治氏もプロ野球が興隆している様子を吉原に一目見せてやりたかったと語っていたそうです。

振り返れば、ナチスの台頭や、大半の日本兵を補給を考えず餓死させた軍部の独裁は、国民が扇動に乗らず、別の選択をしていれば回避できた場面が何度もあった、と言われています。天皇を崇拜し、家に教育勅語を飾っていた私の父も、戦争は二度としてはいけない、軍隊は絶対持つべきではない、と語っていたことを思い出し、筆を置かせていただきます。

交流の思い出

昭和四十六年広島商業高校野球部主将

昭和五十一年法政大学卒業

現在 神奈川県私立武相学園教諭・野球部長 古賀 正

この度は、一橋大学硬式野球部創部七十五周年を迎えられ、誠におめでとうございます。伝統ある一橋大学硬式野球部の記念誌に原稿依頼の話がまじりいささか驚きましたが、広商硬式野球部との交流のスタート時のメンバーの一員ということもあり難く寄稿させて頂きます。広商卒業後三十年以上も過ぎ当時の記憶も定かでなく、途切れ途切れの記憶を思い起こしながら、また広商野球部百年史に記載されている『交流三十年』を参考にしつつ筆を執らせて頂くことにします。

一橋大学硬式野球部と広商硬式野球部との交流のきっかけは、百年史に記載されている通り私の恩師、畠山圭司先生が昭和四十三年に県教育委員会の命により、一年間特別研修生として一橋大学商学部へ国内留学されたことにあります。その間硬式野球部の指導もなされたそうでこれが交流の原点ではないかと思えます。

先生が国内留学を終え、広商に戻られたと同時に私は広商に入学致しました。その後、三年間クラス担任として野球部部长としてご指導頂いたわけでありました。その後、三年間クラス担任として野球部部长としてご指導頂いたわけでありました。そしてその対策として

先生は、大きな目標として野球部員の『部活動と勉学の両立』と『進路保障』を謳われました。そしてその対策として、私が高校三年の冬に初めて当時一橋大学硬式野球部の三年生今井鉄郎・二年生箕原宗憲両氏が広島を訪れたのであります。『広商は野球を、一橋は勉強を共に指導する』というシステムで一ヶ月あまりの期間でありましたが、私と若松茂樹君（東洋大学卒・現三菱重工株式会社広島製作所）が寛氏、濱田規久二君（早稲田大学卒・現株式会社東芝）が今井氏とコンビを組み、昼間はグラウンドで共に汗を流し、夜は受験に對しての学習指導を受けたのでした。

当時は振り返りますと、両氏のグラウンドにおける目の輝き、そして気迫は鋭く凄まじいものがありました。必ずしも野球技術は優れているとは言えない難いものですが、バットスウィングの一振り一振りの力強さ、ボールを追う目の鋭さ、力を抜くことのない全力疾走など集中力を欠かすことのない練習態度は、技術向上そして野球知識を少しでも身に付けようとする貪欲さには執念がこもり、私は勿論のこと当時もメンバーも皆驚き、一目おいたものでした。

練習における目の輝きや気迫は、さらに夜間の学習指導にも表れていたのです。練習の疲れをひと時も見せることなく熱血指導が日々なされたのであります。正直言って私（法政大学）も若松君（東洋大学）も大学への進学は野球を通じてほぼ決定していたように思われます。従って、最初は到底受験生としてはふさわしくない学習態度であったと思います。集中力を欠き、時には居眠りをしたり質問などする余地もありません。しかし、それも寛氏の日々の熱血指導のもと、数日後には自分自身でも驚くほど学習態度が変わってきたことを鮮明に記憶しています。指導する者の立場、そして、指導を受ける側の姿勢、心構えの大切さをこの時学んだのであります。この事は畠山先生にもご指導頂きました。また先生からはこんな話をお聞きしたことがあります。広商硬式野球部の生徒が、受験勉強の指導を受けるために練習終了後、一橋大学生の部屋を訪ねたところ、大学生は風呂に入ったばかりだったので、広商の生徒は大学生が風呂から出てくるのを待つ間、雑然とした部屋の整理整頓をし、テーブルを部屋の中央に置き、自分は正座をして大学生が風呂から出たのを待っていたそうです。風呂から出てきた大学生は、それを見て驚き、これは一生懸命やらなければならぬと自分自身に言い聞かせ、その後の学習指導に誠心誠意努めたということ。これこそ指導を受ける者の姿勢、心構えを物語っている好例だと思います。

今現在、私は教壇に立つ身にあります。この教訓を学習指導、ひいては生徒指導に生かすべく私の教育方針の一つにさせて頂いているのであります。

かくして今井氏の指導を仰いだ濱田君は見事、早稲田大学への合格を果たしたのであります。当時の広商硬式野球部としては誠に画期的なことであつたのです。私が記憶する限り広商硬式野球部から早稲田への進学は彼が最初であり広商硬式野球部の歴史に新しい一ページをさん然と築き上げたのでした。広商野球部百年史に寄稿された今井氏の文の中にも当時のことが書いてありましたが、私と若松君の数十倍もの学習時間をこなした濱田君の努力と頑張りもありませんが今井氏の短期間ではあるが絶対合格させるという執念のこもった熱血的学習指導の賜物ではなかつたかと、今更ながら思います。

ここで話をがらりと変えさせて頂き、横浜でのある出来事を紹介させて頂きます。ある日のこと、私が通勤に利用する横浜市営地下鉄の車内で突然、見知らぬ男性が「おはようございます。古賀先生お元気でございますか。武相高校の野球はいかがですか。」と礼儀正しく話しかけられたのです。「え」と声を出し、さて誰だつたかなと思ひ出そうとする。その男性は間髪いれず、「一橋大学の坂本です。桐蔭学園出身です。」と続けて話しかけてきたのでした。「桐蔭学園出身」と聞いた瞬間、とっさに記憶がよみがえり、その後わずか数分間ではありましたが話が弾んだのでした。「よくありふれた光景かも知れませんが、案外一方が気が付かない場合、知らん顔をして通り過ぎてしまうものではないでしょうか。それを礼儀正しく挨拶して頂き、その日は早朝から心暖まる気持ちにさせて頂いたのを覚えて頂いています。これもひとえに一橋大学硬式野球部の人間形成の賜物ではないかと敬意を表します。

互いに青春時代の人間形成に一環として野球を選択し、そして野球を通じて交流が始まり三十年以上も続いているということは人間形成の過程において、何か大きな影響を与え得るものがあればこそではないでしょうか。事実、私個人

としても前に述べさせて頂いたように現在の私の教育方針の柱となるべくものを教えて頂きました。

教員となつて二十六年目を迎えています。その間、硬式野球部監督を十八年間、部長になつて八年目を迎えています。高校野球の目標は『甲子園』であることは当たり前で、そのために日々猛練習をしているわけです。しかし現在の高校野球の世界において越境入学をはじめ、甲子園至上主義的傾向にあるのではないのでしょうか。もう一度高校野球の有り方を見直すべきです。甲子園以上に大切なそして最大の目標は野球を通じての人間形成ではないのでしょうか。大学へ進学する者、就職して社会人の仲間入りをする者などさまざまな世界へ送り出すのであります。その過程において最大限の人間教育を指導していくことが私も責務であり、その教育方針の柱となるものを交流を通じて学んだのであります。広商硬式野球部を考えて見ても、当時としては考えもしなかつた早稲田大学合格、そして、その後の進学状況を見ても国立大学をはじめ有名大学への進学というすばらしい結果残し続けているのであります。現在、広島県下で広商硬式野球部出身者が教員採用試験を見事合格し、教員として野球部の指導者として活躍しているOBが何名いるそうです。この現実には広商硬式野球部が野球活動と勉学の両立を確立している証であります。これらすべての面において一橋大学硬式野球部と広商硬式野球部との交流が大きな影響を与え続けてきたことは事実であります。近い将来、きっと広商硬式野球部から一橋大学へ進学し大学の硬式野球部員として活躍する日がくることと思ひます。

『広商は野球を、一橋は勉強を共に指導する』というシステムを提案された畠山先生は勿論のこと、この交流を引き受けられた一橋大学の関係者諸氏に心から敬意を表すると共に、交流を通じて互いに切磋琢磨し、すばらしい人材を社会に送り出されますことを確信するのであります。

新しい世紀を迎え、一橋大学硬式野球部と広商硬式野球部との更なる発展した交流が継続されることを願うと共に、一橋大学硬式野球部の益々の発展とご活躍をお祈りし、この辺で筆をおかせて頂きたいと思ひます。

【プレイバック交流史・一橋中村さん広商野球部 100 年史寄稿】

「暑い夏の冷や冷やした思い出」

中村 正文

(昭和57年社会学部卒 長野高校出身) 就職先：東洋エンジニアリング㈱(56年主将) 現在：東洋ビジネスエンジニアリング㈱勤務 広商野球部：畠山部長、桑原監督、永田主将



阪に向かいました。

昭和54年夏の冷や冷やした思い出についてご紹介します。この年広商野球部は1年ぶりに夏の選手権大会出場を決め、畠山部長先生(当時)より、一橋の投手だった私と捕手の岩井(ともに当時2年生)に、甲子園入り後の練習へ合流してはというお誘いがありました。願ってもないお話で、すぐ大

場所は報徳学園のグラウンドだったと思います。フリーの投手として、レギュラー選手を相手に「力試し」をさせてもらいました。今でこそ明かしますと、実はこの時期大学野球はまだシーズン・オフで、調整は必ずしも充分ではありませんでした。とりあえず球は走っていましたが、コントロールが心配で、万一インコースへ狙って投げた球が選手に当たり、怪我でもさせてしまったらと考えると冷や冷やものでした。確かこの時(何も知らずに)打席に立ったのは勝田君、津江本君、南崎君等だったと記憶しています。彼等は私の心配をよそに、私が全力で投げ込んだインコースのボールを、実に事もなげに打ち返してくれました。大学の4年間で、広商のレギュラー選手を相手に投げたのは結局この時だけでしたが、その実力を充分実感することが出来ました。

残念ながら、この年の広商は牛島、香川を擁する浪商に3回戦で敗れてしまいました。一橋の方は(大阪で目覚めた主戦投手の頑張りもあり)、秋のリーグで4部優勝を果たし、入替戦も連勝して念願の3部復帰を飾ることが出来ました。

(中村 記)

今月も一球通信をご覧頂きありがとうございます。

いよいよリーグ戦が開幕致しました。4年投手の好投や1年選手の活躍、部員それぞれの活躍により、初戦こそ落としたものの勝利を重ねています。今季から導入された10回以降タイブレークでは攻撃側・守備側のどちらにしてもいつもとは異なる緊張感がありました。11月の入替戦に向け、ひとつでも多くのことを学んでまいりたいと思います。ご都合のつく際にはグラウンドまで足を運んでくださいますと幸いです。

また、今回「広商交流50周年」特集で掲載している、「寛様(49年卒)」と「広商・古賀様」の寄稿文の中で「若松選手(広商47年卒)」が紹介されていますが、冬の広商合宿で昨年までお世話になった広商前監督です。広商との交流の一方の柱であった「家庭教師」の始まりが広商47年卒の濱田さん、若松さん、古賀さんです。50年の歴史を感じます。

残るリーグ戦も選手マネージャー一同精進して参りますので、今後とも硬式野球部へのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

一橋大学硬式野球部

2年マネージャー 浅川彩音

一橋大学硬式野球部公式ホームページはこちら↓

<http://jfn.josuikai.net/circles/sports/hit-u-bbc/>

↓ご意見・ご要望・配信停止等のご連絡等はこちらまで↓

hit.u.bbc.mg@gmail.com